

「卒業時学習到達度・獲得能力等(学修成果)に関するアンケート」における
採用時の卒業生の能力に関する評価結果について

令和6年度自己点検・評価委員会「卒業生・就職先調査作業部会」

1. 調査の概要

(1) 本調査の目的

本学卒業生の就職先である、幼児教育・保育、民間企業、福祉・介護施設等において、卒業生の採用時獲得能力の現状を把握するとともに、今後の本学教育、キャリア支援等へ活用できる有益な資料を得ることを目的とする。

(2) アンケート調査時期と方法

2024年10月下旬～2024年11月下旬。Google Web アンケート、または質問紙による回答を求めた。

(3) 調査対象

令和6年3月本学卒業生の就職先185件。内訳は、子ども学科関連117件、キャリア育成学科オフィスワークコース関連46件、キャリア育成学科介護福祉コース22件。有効回答は93件(子ども学科59件、オフィスワークコース22件、介護福祉コース12件)で、回答率50.3%(子ども学科50.4%、オフィスワークコース47.8%、介護福祉コース54.5%)となった。

(4) 本調査データの概要

令和5年度自己点検・評価委員会「卒業生・就職先調査部会」による就職先調査の結果と、本学の各学科コースのディプロマポリシーとを踏まえ、5～7頁に示す資料の通り、子ども学科は6領域29項目、キャリア育成学科オフィスワークは6領域18項目、キャリア育成学科介護福祉コースは6領域21項目から成る質問項目を設定した。

上記の項目における採用時の状況(学習到達度・獲得能力等)について、「よくあてはまる(5)～全くあてはまらない(1)」の5件法で回答を求めた。なお、採用先で必要な能力に該当しない場合は「該当なし」を選択できるように配慮した。さらに、各項目のうち「卒業時の到達が特に望まれる項目」3つを選択するとともに、「本学卒業生に対する総合的な満足度」を「大いに満足している(5)～全く満足していない(1)」の5段階評価を求めた。

上記に加え、「本学卒業生の学科・コース専門領域(ビジネス／保育・幼児教育／介護)において上記以外で採用時に獲得しておくことが望ましい能力等」について、任意で自由記述での回答も求めた。

2. 結果・まとめ

(1) 子ども学科

子ども学科卒業生の採用時の状況(学習到達度・獲得能力等)評価平均値と標準偏差は表1に示す通りである。

評価基準点をポイント「3」と考えるならば、領域「倫理観(項目(1)～(5))」「自己表現力(項目(17)～(23))」「主体的な行動力(項目(24)～(26))」「他者との協働力(項目(27)～(29))」については、ほぼ基準以上の評価が得られた。一方、領域「知識・技能(項目(6)～(12))」「論理的で柔軟な思考と判断力(項目(13)～(16))」は基準以下の評価が目立った(表1)。

以上まとめると、本学卒業生は職業人としての基礎となる倫理・使命感や、現場における人間関係形成力は一定以上身につけているものの、保育者としての専門的知識・技能や、それらに基づく応用力・現場対応力については身につける途上である、と採用先より評価されていることが示唆された。

なお「卒業時に到達してほしい項目(上位3つ)」について比較的多く(10件以上)寄せられたものに関しては、「倫理観」で「(2)子どもの尊厳や人権を守ることができる倫理観を持っている(21件;評価平均値 3.42)」「(3)不適切な保育を許さない保育者としての基本的な道徳心を持っている(13件;評価平均値3.49)」「(4)子どもの健やかな育ちを支える保育者としての自覚や責任感を持っている(14件;評価平均値 3.26)」、「知識・技能」で「(7)子どもの状態や気持ち・考えを理解する力を持っている(14件;評価平均値 3.12)」、「自己表現力」では「(17)一般的なコミュニケーション力(笑顔、聴く力、適切な声かけ等)がある(23件;評価平均値 3.27)」、「他者との協働力」では「(27)自分だけの判断や思い込みで行動せず、周囲と協議・協力して業務を遂行することができる(13件;評価平均値 3.14)」となった(表1)。これら重要度の高い項目では全て基準以上の評価が得られ、「本学卒業生への総合的な満足度」における比較的高い評価に結びついたと考えられる(評価平均値 3.72;表1)。なお、昨年度は10件であった「(21)指示や他者の意見を受け入れることができる」とともに、自身の考えを示すことができる」が6件;評価平均値3.05となり、昨年度8件であった「(3)不適切な保育を許さない保育者としての基本的な道徳心を持っている」が13件;評価平均値3.49と入れ替わっており、不適切保育への関心の高まりを反映していると推測される。

以上、昨年度本学卒業生に関して、大まかに肯定的評価が就職先より得られたといえる。評価が芳しくなかった領域・項目はもとより、比較的高評価を得た面についても、授業等様々な機会を通じた更なる成果向上が求められよう。

表1 採用時の状況(学習到達度・獲得能力等)評価平均値と標準偏差(調査1)

領域	能力	調査1 24年採用 (n=59)		卒業までに特に到達が望まれる項目3つ(件)
		平均値	標準偏差	
倫理観	(1) 指針・要領を理解し、それに基づき実践する力がある	3.05	0.85	4
	(2) 子どもの尊厳や人権を守ることができる倫理観を持っている	3.42	1.20	21
	(3) 不適切な保育を許さない保育者としての基本的な道徳心を持っている	3.49	1.20	13
	(4) 子どもの健やかな育ちを支える保育者としての自覚や責任感を持っている	3.26	1.18	14
	(5) プライバシーの保護を理解し、それを踏まえた行動ができています	3.38	1.08	3
知識・技能	(6) 発達(理論・段階等)を理解している	2.81	1.00	5
	(7) 子どもの状態や気持ち・考えを理解する力を持っている	3.12	1.13	14
	(8) 季節の歌などの弾き歌いができる	2.96	1.40	1
	(9) 遊び(造形・運動遊び等含む)の知識・技術がある	2.80	1.16	4
	(10) 読み聞かせの知識・技術がある	3.16	1.16	0
	(11) 乳児保育に関する知識・実践力がある	2.72	1.32	3
	(12) 電話対応、接遇、言葉づかい、情報端末(パソコン・タブレット等)操作などが支障なく行えている	3.14	1.24	7
論理的で柔軟な思考と判断力	(13) 保育現場や子どもの状況に応じた臨機応変な判断ができる	2.77	1.16	5
	(14) 子育て支援の重要性について理解している	3.02	1.16	3
	(15) 子どもの健康状態(食育、アレルギー、病気・怪我等含む)に気づき、適切な判断ができる	3.00	1.15	3
	(16) 要支援ケアの基礎的理解に基づき、適切な判断ができる	2.80	1.28	1
自己表現力	(17) 一般的なコミュニケーション力(笑顔、聴く力、適切な声かけ等)がある	3.27	1.09	23
	(18) 子どもに対するコミュニケーション力がある	3.37	1.29	4
	(19) 保護者に対するコミュニケーション力がある	3.05	1.18	0
	(20) 同僚に対するコミュニケーション力がある	3.19	1.05	1
	(21) 指示や他者の意見を受け入れることができるとともに、自身の考えを示すことができる	3.05	1.08	6
	(22) 指導計画・園だより・記録等の書類を作成することができる	3.13	1.18	3
	(23) 報告・連絡・相談を、的確に遅滞なく行うことができる	3.08	1.16	8
主体的な行動力	(24) 業務を理解し、積極的、意欲的に取り組んでいる	3.24	1.08	5
	(25) 計画性に基づき業務を遂行できる	3.08	0.98	0
	(26) 自身の行動や成果を振り返り、課題を見つけ改善に取り組むことができる	2.95	1.16	7
他者との協働力	(27) 自分だけの判断や思い込みで行動せず、周囲と協議・協力して業務を遂行することができる	3.14	1.17	13
	(28) 出勤・退勤などの挨拶を励行しており、報告や提出も遅滞なくできている	3.49	1.25	4
	(29) 時間管理や健康管理に留意し、規律意識を持った行動ができています	3.57	1.17	3
本学卒業生への総合的な満足度		3.72	1.18	

(2) キャリア育成学科オフィスワークコース

キャリア育成学科オフィスワークコース卒業生の採用時の状況(学習到達度・獲得能力等)評価平均値と標準偏差は表2に示す通りである。

「よくあてはまる(5)~全くあてはまらない(1)」の5段階評価で平均値を見ると、18項目中16項目で3以上となっており、「本学卒業生への総合的な満足度」3.91という総体的に高い評価に繋がっている。

領域別で見えていくと、比較的评价が高い領域としては「他者との協働(項目(15)~(16))」や「良好な人間関係(項目(8)~(11))」、比較的评价が低い領域としては「キャリアデザイン(項目(17)~(18))」が挙げられる。また、「知識・技能(項目(1)~(5))」では、項目間の差(2.80~3.71)が目立つ。

項目別に見えていくと、「(15)時間管理や体調管理、規律意識を持った行動などができる」(3.73)、「(1)Word・Excel・PowerPointなどの基本的操作ができる」(3.71)、「(8)社会人としての挨拶、身だしなみ、言葉づかいなどができる」(3.68)などが比較的评价が高い項目である。一方、評価が比較的低い項目は、「(2)自社・職場で必要となるやや高度な情報スキルを保有している」(2.80)、「(3)自社・職場で有用な資格やスキルを保有している」(2.80)、「(6)課題に対して論理的に考えて正しい行動を取ることができる」(3.14)、「(13)自ら課題を発見したり、課題に主体的に取り組むことができる」(3.14)、「(17)来年、5年後など、自身が職場で今後期待される役割を認識できている」(3.14)、「(18)期待されている役割を担うために何が必要か理解し、そのための取り組みが見られる」(3.14)などである。

総じて、社会人としての常識や汎用スキルに関しては比較的高い評価がなされている一方、個々の職場に特化した業務スキルや、将来を見通したり課題を自ら見つけて取り組んだりすることについては比較的评价が低くなっている。

「卒業時に到達してほしい項目(上位3つ)」と合わせて見ると、平均値が3を下回っている2項目については、当該項目を選んだ回答が0件であった一方、7件以上(回答22件の3割超)から卒業時に到達しておくことが望ましいと回答された項目については、いずれも平均値が3.5を上回っており、採用先の多くで求められる能力については、一定レベルに達している卒業生が多いと考えられる。

但し、すべての項目において1または2の評価が含まれ、個人別では16項目の平均値が1.2から4.7まで大きく開いており、個々の差が顕著である。

以上のことから、昨年度本学卒業生の学修到達度、獲得能力に関しては、多くの卒業生が就職先から期待されている水準に達しているものと考えられる。しかし、期待されているレベルに遠く及ばない学生もいることから、底上げが図れるよう、カリキュラムや授業内容を検討していくことが求められる。

表1 採用時の状況(学習到達度・獲得能力等)評価平均値と標準偏差(調査1)

領域	能力	調査1 24年採用(n=22)		卒業までに特に到達が望まれる項目3つ(件)
		平均値	標準偏差	
知識・技能	(1) Word・Excel・PowerPointなどの基本的操作ができる	3.71	1.18	9
	(2) 自社・職場で必要となるやや高度な情報スキルを保有している	2.80	1.56	0
	(3) 自社・職場で有用な資格やスキルを保有している	2.80	1.54	0
	(4) 社会人として求められる時事知識、教養を保有している	3.32	1.08	2
	(5) 接客・接客や電話対応、立ち振る舞いなどのビジネスマナーが身に付いている	3.18	1.72	6
思考力・判断力	(6) 課題に対して論理的に考えて正しい行動を取ることができる	3.14	1.62	0
	(7) 内容や状況を的確に判断し、周りや上司に相談、指示を仰ぐことができる	3.41	1.79	1
良好な人間関係 (コミュニケーション・マナー)	(8) 社会人としての挨拶、身だしなみ、言葉づかいなどができる	3.68	1.84	13
	(9) 職場のコミュニケーション、顧客等との会話が支障なく行える	3.45	1.83	5
	(10) 正しい日本語で、正確で分かりやすい文章を書くことができる	3.59	1.82	0
主体的な行動力	(11) 報告・連絡・相談が滞りなく、的確に行える	3.55	1.88	8
	(12) 自らの役割を理解し、積極的、意欲的に取り組んでいる	3.18	1.66	5
	(13) 自ら課題を発見したり、課題に主体的に取り組むことができる	3.14	1.62	0
他者との協働	(14) 必要な知識やスキル、資格の修得に積極的に取り組んでいる	3.41	1.73	0
	(15) 時間管理や体調管理、規律意識を持った行動などができる	3.73	1.89	4
キャリアデザイン	(16) 組織の一員として、他者と協働して業務遂行ができ、また周りへの気配りができる	3.59	1.82	4
	(17) 来年、5年後など、自身が職場で今後期待される役割を認識できている	3.14	1.60	0
	(18) 期待されている役割を担うために何が必要か理解し、そのための取り組みが見られる	3.14	1.62	0
本学卒業生への総合的な満足度		3.91	1.99	

(3) キャリア育成学科介護福祉コース

キャリア育成学科オフィスワークコース卒業生の採用時の状況(学習到達度・獲得能力等)評価平均値と標準偏差は表2に示す通りである。

「よくあてはまる(5)～全くあてはまらない(1)」の5段階評価で平均値を見ると、「倫理観(項目(1)～(4))」と「他者との協働(項目(19)～(21))」では全項目で3以上、「論理的で柔軟な思考と判断力(項目(9)～(11))」では全項目で3未満と領域ごとの偏りが目立つ。項目間で差がある領域では、「知識・技能(項目(5)～(8))」は比較的高評価、「自己表現力(項目(12)～(15))」と「主体的な行動力(項目(16)～(18))」は比較的厳しい評価となっている。「本学卒業生への総合的な満足度」は4.00となっており、総合的な満足度は比較的高いものと考えられる。

項目別に平均値を見ていくと、「(4) プライバシーの保護を理解し、それを踏まえた行動ができる」(3.83)、「(7) 移動、食事、入浴、排泄、レクリエーション活動など基本的な生活支援技術を保有し、実践できる」(3.75)、「(16) 業務を理解し、積極的、意欲的に取り組んでいる」「(20) 出勤・退勤時など、また利用者やその家族との挨拶を励行しており、報告や提出も遅滞なくできる」(3.67)などが比較的评价が高い項目となっている。

一方、評価が比較的低い項目は、「(17) 自ら地域や施設の課題を発見したり、課題に主体的に取り組むことができる」(2.17)、「(13) 利用者の家族とのコミュニケーションができ、適切な助言ができる」(2.42)、「(10) 緊急対応や救急搬送など必要に応じて適切な部署につなぐことができる」(2.58)などである。これらは、介護施設等に就職して1年目は直接携わることの少ない内容の項目であることから、評価者が評価しにくい項目であるという特性も関連していると推測される。たとえば、介護施設に就職して1年目は、地域の課題を発見したり介護計画や実地調査等の書類作成の担当として利用者家族に助言したりすることも少ないと考えられる。

総じて、倫理観やケアの実務に関する知識・技能については比較的良好な評価を得ている一方、臨機応変な対応力については比較的低い評価となっている。

「卒業時に到達してほしい項目(上位3つ)」と合わせてみると、4件以上(回答12件の3割超)から卒業時に到達しておくことが望ましいと回答された項目について、「(2) 人間の尊厳や人権を守ることができる倫理観を持ち、行動している」(5件;平均値3.50)、「(3) 障害者虐待、高齢者虐待につながる不適切なケアについて理解し、背景要因の改善に取り組める」(4件;平均値3.42)は比較的评价が高いものの、「(8) 電話対応、接遇、言葉づかい、情報端末(パソコン・タブレット等)操作などが支障なく行える」(4件;平均値2.75)は低い評価にとどまっている。

以上のことから総合的な満足度は比較的高いものの、評価が低い項目については、日頃の対人関係の中で培われる能力も含まれており、日常的な関りの中で能力を引き上げる方策の検討が求められる。

表1 採用時の状況(学習到達度・獲得能力等)評価平均値と標準偏差(調査1)

領域	能力	調査1 24年採用(n=12)		卒業までに特に到達が望まれる項目3つ(件)
		平均値	標準偏差	
倫理観	(1) 倫理綱領を理解し実践している	3.33	0.98	2
	(2) 人間の尊厳や人権を守ることができる倫理観を持ち、行動している	3.50	1.00	5
	(3) 障害者虐待、高齢者虐待につながる不適切なケアについて理解し、背景要因の改善に取り組める	3.42	1.08	4
	(4) プライバシーの保護を理解し、それを踏まえた行動ができる	3.83	1.19	0
知識・技能	(5) 高齢者・障害者の心身の状態を理解し、その人に合った行動ができる	3.42	1.08	3
	(6) 利用者の介護ニーズをアセスメントし、介護計画に沿った介護過程が展開できる	3.00	1.35	1
	(7) 移動、食事、入浴、排泄、レクリエーション活動など基本的な生活支援技術を保有し、実践できる	3.75	1.28	1
	(8) 電話対応、接遇、言葉づかい、情報端末(パソコン・タブレット等)操作などが支障なく行える	2.75	1.05	4
論理的で柔軟な思考と判断力	(9) 利用者のいつもの違和感を感じ取り、その場に応じた適切な対応ができる	2.83	0.83	3
	(10) 緊急対応や救急搬送など必要に応じて適切な部署につなぐことができる	2.58	0.90	0
	(11) 周りの状況に応じて優先すべき業務を判断し、迅速に行動することができる	2.83	0.83	1
自己表現力	(12) 相手に応じて伝え方を変える、相手が伝えようとする内容を汲み取るなど利用者との意思疎通ができる	2.92	0.79	1
	(13) 利用者の家族とのコミュニケーションができ、適切な助言ができる	2.42	0.90	2
	(14) 指示や他者の意見を受け入れることができるとともに、自分の意見を述べるができる	3.17	1.02	1
	(15) 報告・連絡・相談や各種記録を、的確に遅滞なく行うことができる	3.17	1.11	1
	(16) 業務を理解し、積極的、意欲的に取り組んでいる	3.67	1.07	1
主体的な行動力	(17) 自ら地域や施設の課題を発見したり、課題に主体的に取り組むことができる	2.17	0.83	0
	(18) 自身の行動や成果を振り返り、課題を見つけ改善に取り組むことができる	3.00	0.95	0
	(19) 自分だけの判断や思い込みで行動せず、多職種と協議・協力して業務を遂行することができる	3.25	0.86	3
他者との協働	(20) 出勤・退勤時など、また利用者やその家族との挨拶を励行しており、報告や提出も遅滞なくできる	3.67	1.15	0
	(21) 時間管理や健康管理に留意し、規律意識を持った行動ができる	3.58	1.31	3
	本学卒業生への総合的な満足度		4.00	0.85

調査資料(FAX 送付用)

令和6年度高田短期大学 採用時の状況（学習到達度・獲得能力等）に関するアンケート（子ども学科）
 本学卒業生における以下の能力・資質・スキル等についてお尋ねします。貴社・貴法人ご採用時の獲得状況や到達度（全29項目）を5段階評価
 でお答えください（1.全くあてはまらない～5.よくあてはまる）。なお、ご回答に際しては、次の点をご留意ください。

・現時点で業務に直接的に関係がなく評価不可能な項目（能力等）については「該当なし」をご選択ください。出身学科とは異なる業務にご採
 用いただいた場合（例：子ども学科卒業生が企業様にご採用いただいている場合等）、「該当なし」をご選択いただいで構いません。

・複数採用いただいている場合、令和6（2024）年4月ご採用者の「平均的評価」をお願い致します。

恐れ入りますが10/31（木）までに**FAX（059-232-2722）**にて送信をお願い致します。（送付状は不要です。）

また、このアンケートはWEBからでも回答いただくことが可能です。下記のURLから回答をお願いします。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd8-XeB-BGDzniVmT1Sw84Cv81ly8SrjU9--4bH149wbBgfnQ/viewform?usp=sf_link

業種（例：幼稚園、保育園、こども園、児童養護施設・乳児院、障害者施設、企業（業種）など）をご記入ください。

() () ()

領域	質問項目	該当項目に○をお付けください 1（全くあてはまらない）⇄5（よくあてはまる）
倫理観	(1) 指針・要領を理解し、それに基づき実践する力がある	該当なし 1・2・3・4・5
	(2) 子どもの尊厳や人権を守ることができる倫理観を持っている	該当なし 1・2・3・4・5
	(3) 不適切な保育を許さない保育者としての基本的な道徳心を持っている	該当なし 1・2・3・4・5
	(4) 子どもの健やかな育ちを支える保育者としての自覚や責任感を持っている	該当なし 1・2・3・4・5
	(5) プライバシーの保護を理解し、それを踏まえた行動ができています	該当なし 1・2・3・4・5
知識・技能	(6) 発達（理論・段階等）を理解している	該当なし 1・2・3・4・5
	(7) 子どもの状態や気持ち・考えを理解する力を持っている	該当なし 1・2・3・4・5
	(8) 季節の歌などの弾き歌いができる	該当なし 1・2・3・4・5
	(9) 遊び（造形・運動遊び等含む）の知識・技術がある	該当なし 1・2・3・4・5
	(10) 読み聞かせの知識・技術がある	該当なし 1・2・3・4・5
	(11) 乳児保育に関する知識・実践力がある	該当なし 1・2・3・4・5
	(12) 電話対応、接遇、言葉づかい、情報端末（パソコン・タブレット等）操作などが支障なく行えている	該当なし 1・2・3・4・5
論理的で柔軟な思考と 判断力	(13) 保育現場や子どもの状況に応じた臨機応変な判断ができる	該当なし 1・2・3・4・5
	(14) 子育て支援の重要性について理解している	該当なし 1・2・3・4・5
	(15) 子どもの健康状態（食育、アレルギー、病気・怪我等含む）に気づき、適切な判断ができる	該当なし 1・2・3・4・5
	(16) 要支援ケアの基礎的理解に基づき、適切な判断ができる	該当なし 1・2・3・4・5
自己表現力	(17) 全般的なコミュニケーション力（笑顔、聴く力、適切な声かけ等）がある	該当なし 1・2・3・4・5
	(18) 子どもに対するコミュニケーション力がある	該当なし 1・2・3・4・5
	(19) 保護者に対するコミュニケーション力がある	該当なし 1・2・3・4・5
	(20) 同僚に対するコミュニケーション力がある	該当なし 1・2・3・4・5
	(21) 指示や他者の意見を受け入れることができるとともに、自身の考えを示すことができる	該当なし 1・2・3・4・5
	(22) 指導計画・園だより・記録等の書類を作成することができる	該当なし 1・2・3・4・5
	(23) 報告・連絡・相談を、的確に遅滞なく行うことができている	該当なし 1・2・3・4・5
主体的な行動力	(24) 業務を理解し、積極的、意欲的に取り組んでいる	該当なし 1・2・3・4・5
	(25) 計画性に基づき業務を遂行できる	該当なし 1・2・3・4・5
	(26) 自身の行動や成果を振り返り、課題を見つけ改善に取り組むことができる	該当なし 1・2・3・4・5
他者との協働力	(27) 自分だけの判断や思い込みで行動せず、周囲と協議・協力して業務を遂行することができる	該当なし 1・2・3・4・5
	(28) 出勤・退勤などの挨拶を励行しており、報告や提出も遅滞なくできている	該当なし 1・2・3・4・5
	(29) 時間管理や健康管理に留意し、規律意識を持った行動ができています	該当なし 1・2・3・4・5

今回お伺いした29項目のうち、卒業時の到達が特に望まれる項目3つを**(1)～(29)の番号**で選択してください。

() () ()

質問項目	1（全く満足していない）⇄5（大変満足している）
本学卒業生に対する総合的な満足度をお答えください	1・2・3・4・5

本学卒業生の学科・コース専門領域（ビジネス／保育・幼児教育／介護）において、上記以外で採用時に獲得しておいてほしい能力等がござ
 いましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

令和6年度高田短期大学 採用時の状況（学習到達度・獲得能力等）に関するアンケート
 （キャリア育成学科オフィスワークコース）

本学卒業生における以下の能力・資質・スキル等についてお尋ねします。貴社・貴法人ご採用時の獲得状況や到達度（全18項目）を5段階評価
 でお答えください（1.全くあてはまらない～5.よくあてはまる）。なお、ご回答に際しては、次の点をご留意ください。

- ・現時点で業務に直接的に関係がなく評価不可能な項目（能力等）については「該当なし」をご選択ください。
- ・複数名採用いただいている場合、令和6（2024）年4月ご採用者の「平均的評価」をお願い致します。

恐れ入りますが10/31（木）までに**FAX（059-232-2722）**にて送信をお願い致します。（送付状は不要です。）

また、このアンケートはWEBからでも回答いただくことが可能です。下記のURLから回答をお願いします。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd_anEtcnAkFzA_kSwLM3yQnyC6hfB-vFZX00-WudryUBbpMQ/viewform?usp=sf_link

業種（例：建設、製造、情報通信、小売、医療など）をご記入ください。

()

		該当項目に○をお付けください					
		1（全くあてはまらない）～5（よくあてはまる）					
領域	質問項目	1	2	3	4	5	
知識・技能	(1) Word・Excel・PowerPointなどの基本的操作ができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(2) 自社・職場で必要となるやや高度な情報スキルを保有している	該当なし	1	2	3	4	5
	(3) 自社・職場で有用な資格やスキルを保有している	該当なし	1	2	3	4	5
	(4) 社会人として求められる時事知識、教養を保有している	該当なし	1	2	3	4	5
	(5) 接客・接客や電話対応、立ち振る舞いなどのビジネスマナーが身に付いている	該当なし	1	2	3	4	5
思考力・判断力	(6) 課題に対して論理的に考えて正しい行動を取ることができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(7) 内容や状況を的確に判断し、周りや上司に相談、指示を仰ぐことができる	該当なし	1	2	3	4	5
良好な人間関係（コミュニケーション・マナー）	(8) 社会人としての挨拶、身だしなみ、言葉づかいなどができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(9) 職場のコミュニケーション、顧客等との会話が支障なく行える	該当なし	1	2	3	4	5
	(10) 正しい日本語で、正確で分かりやすい文章を書くことができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(11) 報告・連絡・相談が遅滞なく、的確に行える	該当なし	1	2	3	4	5
主体的な行動力	(12) 自らの役割を理解し、積極的、意欲的に取り組んでいる	該当なし	1	2	3	4	5
	(13) 自ら課題を発見したり、課題に主体的に取り組むことができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(14) 必要な知識やスキル、資格の修得に積極的に取り組んでいる	該当なし	1	2	3	4	5
他者との協働	(15) 時間管理や体調管理、規律意識を持った行動などができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(16) 組織の一員として、他者と協働して業務遂行ができ、また周りへの気配りができる	該当なし	1	2	3	4	5
キャリアデザイン	(17) 来年、5年後など、自身が職場で今後期待される役割を認識できている	該当なし	1	2	3	4	5
	(18) 期待されている役割を担うために何が必要か理解し、そのための取り組みが見られる	該当なし	1	2	3	4	5

今回お伺いした18項目のうち、卒業時の到達が特に望まれる項目3つを(1)～(18)の番号で選択してください。

() () ()

質問項目	1（全く満足していない）～5（大変満足している）
本学卒業生に対する総合的な満足度をお答えください	1・2・3・4・5

本学卒業生の学科・コース専門領域（ビジネス／保育・幼児教育／介護）において、上記以外で採用時に獲得しておいてほしい能力等がございましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

令和6年度高田短期大学 採用時の状況（学習到達度・獲得能力等）に関するアンケート
（キャリア育成学科介護福祉コース）

本学卒業生における以下の能力・資質・スキル等についてお尋ねします。貴社・貴法人ご採用時の獲得状況や到達度（全21項目）を5段階評価でお答えください（1.全くあてはまらない～5.よくあてはまる）。なお、ご回答に際しては、次の点をご留意ください。

- ・現時点で業務に直接的に関係がなく評価不可能な項目（能力等）については「該当なし」をご選択ください。出身コースとは異なる業務にご採用いただいた場合（例：介護福祉コース卒業生が企業様にご採用いただいている場合等）、「該当なし」をご選択いただいて構いません。
- ・複数名採用いただいている場合、令和6（2024）年4月ご採用者の「平均的評価」をお願い致します。

恐れ入りますが10/31（木）までに**FAX（059-232-2722）**にて送信をお願い致します。（送信状は不要です。）

また、このアンケートはWEBからでも回答いただくことが可能です。下記のURLから回答をお願いします。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdWRuYKyy0DNQubD6j7LGfmXE-uFi9KBIMBN5SE1flgb2j_Gw/viewform?usp=sf_link

業種（例：介護老人福祉施設（特養）、介護老人保健施設（老健）、障がい者支援施設など）をご記入ください。

()

領域	質問項目	該当項目に○をお付けください					
		1	2	3	4	5	
倫理観	(1) 倫理綱領を理解し実践している	該当なし	1	2	3	4	5
	(2) 人間の尊厳や人権を守ることができる倫理観を持ち、行動している	該当なし	1	2	3	4	5
	(3) 障害者虐待、高齢者虐待につながる不適切なケアについて理解し、背景要因の改善に取り組める	該当なし	1	2	3	4	5
	(4) プライバシーの保護を理解し、それを踏まえた行動ができる	該当なし	1	2	3	4	5
知識・技能	(5) 高齢者・障害者の心身の状態を理解し、その人に合った行動ができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(6) 利用者の介護ニーズをアセスメントし、介護計画に沿った介護過程が展開できる	該当なし	1	2	3	4	5
	(7) 移動、食事、入浴、排泄、レクリエーション活動など基本的な生活支援技術を保有し、実践できる	該当なし	1	2	3	4	5
	(8) 電話対応、接遇、言葉づかい、情報端末（パソコン・タブレット等）操作などが支障なく行える	該当なし	1	2	3	4	5
論理的で柔軟な思考と判断力	(9) 利用者のいつもとの違和感を感じ取り、その場に応じた適切な対応ができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(10) 緊急対応や救急搬送など必要に応じて適切な部署につなぐことができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(11) 周りの状況に応じて優先すべき業務を判断し、迅速に行動することができる	該当なし	1	2	3	4	5
自己表現力	(12) 相手に応じて伝え方を変える、相手が伝えようとする内容を汲み取るなど利用者との意思疎通ができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(13) 利用者の家族とのコミュニケーションができ、適切な助言ができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(14) 指示や他者の意見を受け入れることができるとともに、自分の意見を述べるができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(15) 報告・連絡・相談や各種記録を、的確に遅滞なく行うことができる	該当なし	1	2	3	4	5
主体的な行動力	(16) 業務を理解し、積極的、意欲的に取り組んでいる	該当なし	1	2	3	4	5
	(17) 自ら地域や施設の課題を発見したり、課題に主体的に取り組むことができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(18) 自身の行動や成果を振り返り、課題を見つけ改善に取り組むことができる	該当なし	1	2	3	4	5
他者との協働	(19) 自分だけの判断や思い込みで行動せず、多職種と協議・協力して業務を遂行することができる	該当なし	1	2	3	4	5
	(20) 出勤・退勤時など、また利用者やその家族との挨拶を励行しており、報告や提出も遅滞なくできる	該当なし	1	2	3	4	5
	(21) 時間管理や健康管理に留意し、規律意識を持った行動ができる	該当なし	1	2	3	4	5

今回お伺いした21項目のうち、卒業時の到達が特に望まれる項目3つを(1)～(21)の番号で選択してください。

() () ()

質問項目	1	2	3	4	5
本学卒業生に対する総合的な満足度をお答えください	1	2	3	4	5

本学卒業生の学科・コース専門領域（ビジネス／保育・幼児教育／介護）において、上記以外で採用時に獲得しておいてほしい能力等がございましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

謝辞

本調査にご回答いただきました採用先の関係者皆様に心より感謝申し上げます。本調査結果を、今後の本学教育やキャリア支援等に活かせるよう努めてまいります。ご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。

以 上